

耐暑性抜群!濃緑で多収性の夏用新品种。各地で導入拡大中!

## ニイハオ三夏 チンゲンサイ



従来の夏用品種に比べ、品質面が大きく向上した「ニイハオ三夏」。暑さに非常に強く、各地の夏どり栽培で普及拡大中です!今回は優れた品種特性と栽培管理のポイントについてご紹介します。



### 産地で選ばれている3つの理由

- ①チップバーンの発生が少ない  
・夏どり栽培で発生するチップバーンに強く、栽培しやすい品種です。
- ②見栄えがよい  
・葉柄は広く、厚みがあり、見た目のボリューム感は抜群です。  
・葉色は濃緑、葉柄はなめらかで艶があります。
- ③生育はじっくり型で在圃性が高い  
・生育はじっくり型で定植後約30日で収穫適期となります。徒長せず、収穫開始期以降の品質劣化が遅いです。

### ブリーダーが教えます!栽培管理のポイント

チンゲンサイ担当:手塚 大貴

#### 👉 施肥のポイント~元肥の過剰施用に注意しましょう~

「ニイハオ三夏」の播種期である6月上旬~8月中旬は高温で生育期間が短く、吸肥力が強い時期です。前作の様子を見ながら元肥を少なめにして生理障害や病害の発生を防止しましょう。施肥量の目安は7~8月どりハウス栽培で、窒素成分量2~3kg/10aです。また、長期間連作しているハウス圃場の夏どり栽培では2作に1回は無肥料で栽培するなど、適正な施肥管理を心がけてください。



▲芯葉をしっかり伸ばす

#### 👉 収穫適期を守る~芯葉をしっかり伸ばして収穫~

生育はじっくり型のため、従来の夏用品種と比べ、収穫日数が5~7日くらい長くなる場合がありますので注意してください。もし、収穫適期を迎える前に収穫を行うと、外葉と芯葉のバランスが悪いチンゲンサイになってしまいます。

また、収穫時に葉柄が折れやすくなるので注意してください。右写真のように芯葉(黄色丸印)が充実した頃が収穫適期となりますので参考にしてください。



#### 👉 播種適期を守る~「ニイハオ新1号」との組み合わせで栽培安定~

中間地での播種開始は6月からです。5月に播種を行うと、草丈が短く開張性となります。5月までは春先の寒暖差に強い「ニイハオ新1号」を播種してください。「ニイハオ三夏」の播種の切り上げは8月上中旬とし、その後、9月いっぱいまで「ニイハオ新1号」を播種してください。